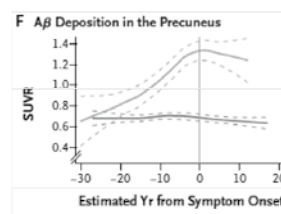
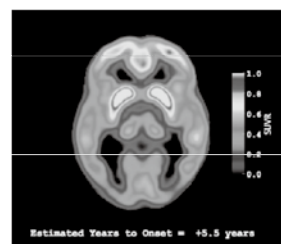
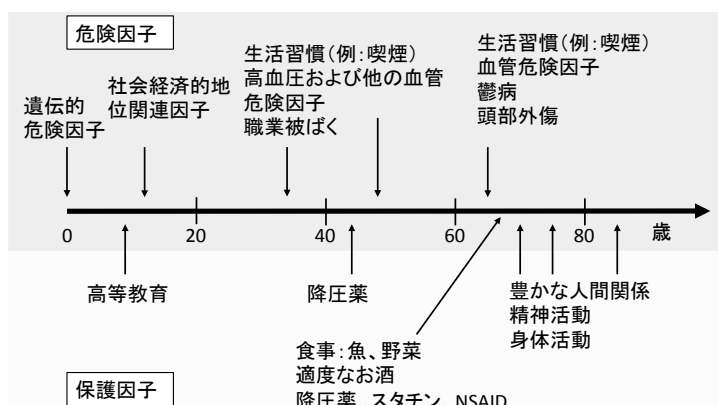


「認知症予防のための コミュニティの創出と効果検証」

National Center for Geriatrics & Gerontology

➤ 認知症の危険因子と保護因子

高齢期には豊かな人間関係を通した活動的なライフスタイルが認知症予防に有効



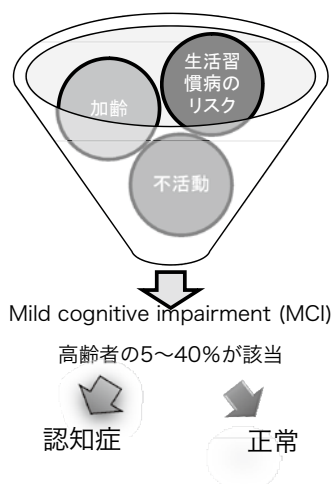
Fratiglioni L, *Lancet Neurol* 2004.

Bateman RJ, *NEJM* 2012.

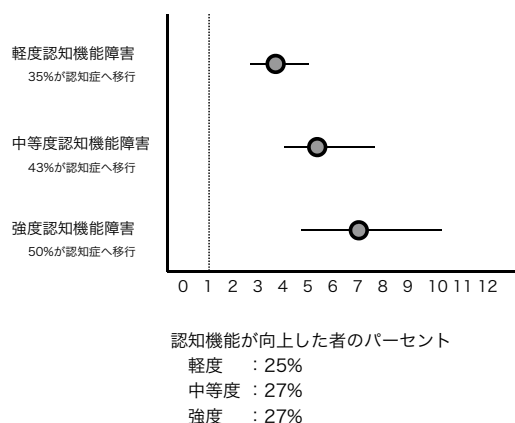
National Center for Geriatrics & Gerontology

➤ MCI予防による認知症発症遅延

認知症予防のためにはMCIからの脱却が重要



3年間の追跡調査による認知症移行への相対危険度
(N=1,435)



Palmer K, *Am J Psychiatry* 2002



2003 年北里大学大学院博士課程修了（リハビリテーション医学）、東京都老人総合研究所入職。Prince of Wales Medical Research Institute (Sydney, Australia) 客員研究員、日本学術振興会特別研究員、東京都健康長寿医療センター研究所を経て、現在は国立長寿医療研究センターに所属。専門領域はリハビリテーション医学、老年学。認知症予防や寝たきり予防を目指した高齢者の健康増進のための効果的なプログラムの作成と効果検証を実践している。

➤介護予防へ向けた二次予防対策

機能健診によるMCIの発見と介護予防事業への参加が重要

高齢者機能健診

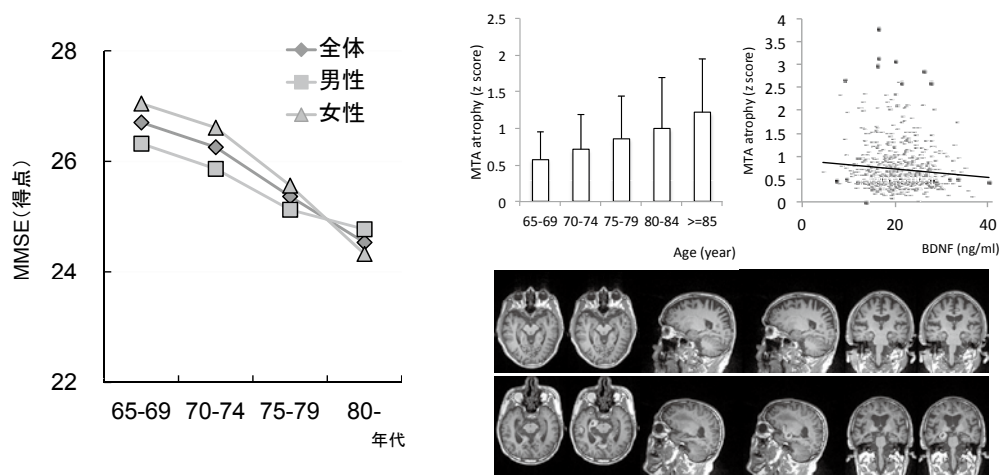


介護予防事業 運動教室・学習教室



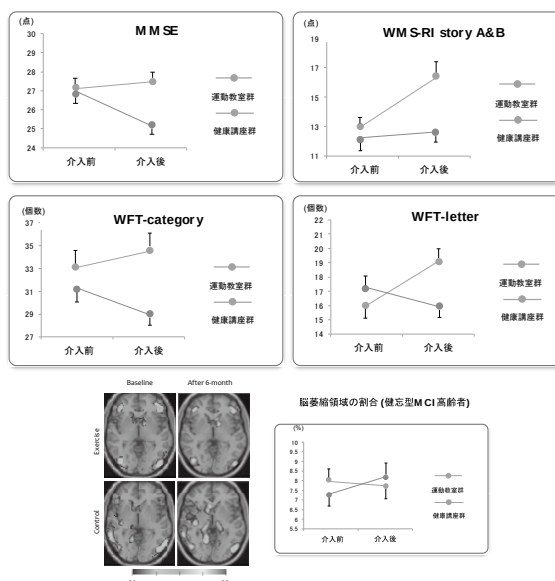
認知機能と脳容量の加齢に伴う変化

加齢とともに認知機能、脳容量は低下する



活動的なライフスタイルによる認知機能の変化

活動的なライフスタイルは認知機能や脳萎縮予防に効果的



共助関係の構築によるコミュニティの創出

認知症予防の継続した取り組みのためには共助関係による地域力の向上が必要



認知症予防の活動に関する周知

認知症予防のための取り組みを広く周知する



到達目標

1. MCIスクリーニングシステムと、人材育成プログラムを開発する
2. 認知機能向上に有効な方法を明らかにする
3. 認知症やその予防に対する理解をコミュニティ全体で高める